

## 令和4年度第2回まちづくりプロジェクトチーム議事要旨

日 時：令和4年10月14日（金）13:30～15:00

場 所：富山県庁4階地方創生局長室（オンライン）

### ○委員の主な発言

#### 【まちづくりに係る中間支援組織（コミュニティシンクタンク）の設置について】

- ・ 活気がある場所はほとんどが富山市の街中にできていて、学生の住む大学周辺には少ない。大学の近くにあれば学生が地域を動かす拠点となり理想的。
- ・ 富山大学には、地域で何か取り組みたい人が全国から集まっているが、授業の範囲内の活動に落ち着いてしまっていてもったいない。組織があれば単なるボランティア活動やインターン以上に学生が地域で活躍できる可能性が生まれる。
- ・ 取り組みは現代的で面白いが、市町村による既存のまちづくりの取り組みはどうしても安全な方に振れている。そのあたりのバランスを取るとか、県全体の連携や世代間連携を図れる方向をもっと考えていかなければならない。
- ・ つまらない取り組みに落ち着くことは避けたい。渋谷未来デザインは民間の若者の感覚で全然行政っぽくない。むしろ「ここまでやるのか」ということをしている。
- ・ 何かやりたい思いはあるけど日常の煩雑さに埋もれて何もできない人もいると思う。そのような人たちが中間支援組織と市町村を行き来してもらおう流れができると良い。
- ・ コミュニティシンクタンクという言葉に込めた意味は、経済的成功や経済指標などを全く度外視で考えて本当に必要なことを追求するという思い。5年10年では食べていけなくても、その後の10年に効果が現れるプロジェクトを支援することで日本だけでなく世界的に注目される都市になると思う。
- ・ 中間支援組織はこれまでの取り組みと歩みを揃える必要はなく、必要があれば連携すればよい。主目標は幸せ人口1,000万人だが、よりエッジの効いた取り組みや全体では整合性の取りづらい取り組みなどを行っていく組織。
- ・ 県は現場がないので現場感が分からないというフレーズをよく聞くが、その現場感をこの組織から吸い上げる方が、市町村が対応するよりも早い。各地域にとっては直接県に繋がるルートを持つことになり、このような繋がりを濃くしていけばフェアな立場で県と市町村が語り合える。
- ・ 小さなプロジェクトでも県が注目していると見せることで急に高い評価をされることもある。中間支援組織では発信などで苦戦している地域に集中的に外部評価を与えて盛り上げていく役割も期待している。
- ・ 地域での外部評価は大事。県という外部評価をつけて、「(中間支援組織で)やっていることは重要だ」という箔をつけていければ良い。簡単なメディアみたいなものを持ちPRをして盛り上げていくことも考えている。

## 【その他】

- ・ 地域にはいくつか課題があり、1つ目は、新しいことをやっていく空気がないこと。2つ目は、憧れる大人が少ないように見えること。3つ目は、外に発信できるメディアが無いこと。
- ・ 兵庫県明石市や神奈川県鶴岡市などは出版社と提携して全国の書店に市の情報を並べて発信をしている。富山のメディアでその機能を持っているところはないと思う。
- ・ 富山県の強みの一つは県全域が一つの経済圏となっていること。市町村を超えて仲良く議論できている地域は他では無い。
- ・ 県の役割として期待することは条例を作れること。各方面への調整など困難なことはあると思うが、法律が足かせになっている部分に条例で対応できることは強み。
- ・ まちづくり業界はワークショップブームで、そこでは声の大きなネガティブな意見ばかりが勝ってしまい、若者が嫌気を刺して遠ざかっている。成功するケースとは、ネガティブな意見を気にせず良いと決めたものを行動していくような場合。
- ・ 富山市の中心市街地では各町内の足並みがバラけている。市は其中で絡みやすい人をピックアップする傾向にあり、面白い取り組みやプレーヤー育成などの話が出てきているのに、まちなかでは今までの歩みを変えられていない。前市長がやってきたイベントの形や考え方を継承しているだけに過ぎず、自治会やまちづくりに取り組んでいる人との連携が弱い。
- ・ 輝いたり頭角を現したりする人が現れると、最初は持ち上げられるが一定の波を超えるか取って代わるような存在が現れたときに、そちらに流されてしまう感じがある。
- ・ 新しいものに対しては、一歩引いて本質的には掴まないが、情報に対して群がっている印象があり、その目立った人がエッジなことを発言すると、二歩くらい距離を取り無難な方の選択肢を掴むみたいなことが起きる。
- ・ 傾向として、地方行政に近ければ近いほど無難を選びがちである。岐路に立った時にそれ自体をやめるという取り組みをみんなで合意すれば良い。富山は県も市町村も、判断に迷った時は無難じゃない方を選びます、ということを積極的にやること。
- ・ 富山在住の人は You Tube を観ている感覚になっていないか。どこか他人事できて、でも面白い話は聞きたいからセミナーに参加するが、帰り道に面白かったなと思うぐらいで、風呂入って寝たらもう忘れるような軽さがある。このような取り組みを100回やるよりも、刺激的な発言ができる人たちによるテーマを絞った議論の場の方が、若者への影響力も高いし結果的にアクションを起こせる人が増えていく。
- ・ 空気を読むことに対して水を差せる人間を入れておくのも大事。成長戦略会議がそのような場になっていた。例えば、東京在住の富山出身者で、富山をよくしたい思いは有るが関わる機会が無い人たちにアドバイザーなどで入ってもらうイメージ。